

海事観光の戦略的推進について

～「海事観光戦略実行推進本部」とりまとめ～

「観光先進国」の実現に向けた海事観光推進の必要性

○海事観光戦略実行推進本部において、海事観光推進の取組により目指すべき姿として、「①海事観光分野で観光先進国という政府目標に貢献すること」、「②海事観光推進を海事分野の成長のエンジンにすること」、「③海事局の進める『C to Seaプロジェクト』を観光面からのアプローチで更に活性化すること」を位置づけ、これらの実現に向けた取組の方向性について、総合的な検討を実施

○検討の結果、**海事観光のポテンシャルを最大限引き出し、以下の3つの視点により、重点的に取組を推進**

三つの視点 ①地方誘客・消費拡大への貢献、②受入環境整備、③多様な魅力の発信強化

➡ 海事観光分野において、観光先進国の実現に貢献

※取組の推進に当たり、食やレジャー等幅広い他業界を取り込んだプラットフォーム構築について検討

海事観光分野が有するポテンシャル

①フェリーや旅客船による快適な広域周遊を通じた地方部への送客



フェリー



旅客船

②スーパーヨット等の豪華な滞在環境コンテンツによる富裕層の誘致



スーパーヨット



チャーターヨット船内イメージ

③海上輸送の特性による船でしかアクセスできない離島への誘客



(出典)小笠原村HP

小笠原諸島



座間味島

島国日本の美しい離島へ

④マリナクティビティ等の体験型コンテンツによる「コト」消費の拡大



マリナクティビティ



視点1 地方誘客、消費拡大への貢献～取組の方向性・具体の取組事項の例①～

取組の方向性

海事観光分野が有する特性を生かし、**地方誘客・消費拡大に貢献**

① 地方誘客を実現する広域周遊の実現

フェリーや旅客船による広域送客の特性を活かし、船と他交通モードとの連携による**地方送客**や、**地方での滞在日数増加を実現**

【取組の例】

- レンタカーや鉄道と連携した広域的な周遊ルートの創出や商品の造成
- サイクルシップなど、新しい需要に対応した船内環境の実現 等



レンタカー&クルーズ



サイクル&クルーズ



レール&クルーズ



② 富裕層の誘致に向けた環境整備

スーパーヨットや豪華チャーターヨット等の活用により、**富裕層の誘致による消費拡大を実現**

【取組の例】

- スーパーヨットの検査基準等の見直し
- 豪華チャーターヨットによる周遊ツアー活性化のための環境整備 等



スーパーヨット



豪華チャーターヨット

消費額目安: 1隻あたり1ヶ月の消費額が1500万円～2500万円

消費額目安: 1隻あたり1日の宿泊チャーター料が約30万円

視点1 地方誘客、消費拡大への貢献～取組の方向性・具体の取組事項の例②～

③ 離島へのアイランドツーリズムの推進

船の海上輸送の特性を生かし、**離島への誘客・滞在日数増を実現**

【取組の例】

インバウンド船旅振興制度の創設【2019年3月22日公表】

○旅客船事業者の創意工夫による観光航路活性化に向けた「**インバウンド船旅振興制度**」を創設

(2019年度～)

新規航路開設等の新サービス創出がより柔軟に可能に



インバウンド船旅振興制度活用予定航路(新潟～粟島間)

需要増等に対応した新規観光航路の設定

ODMO等との連携やイベントの需要増に対応した**新規観光航路の設定**

【新規航路創設の例】

瀬戸内国際芸術祭2019に向けて、島間移動の利便向上を目指し、3新規航路を創設(2019年2月許可)



海の駅「なおしま」(瀬戸内国際芸術祭2019作品)

④ コト消費の拡大

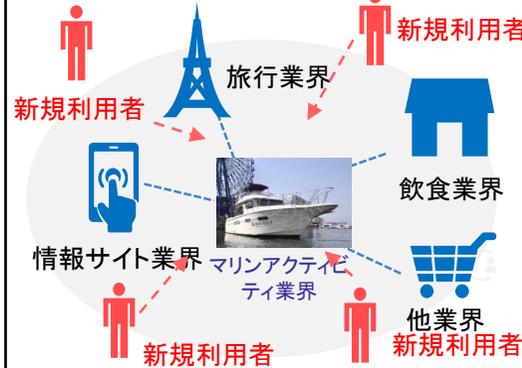
1. マリンアクティビティ等の海事観光コンテンツの磨き上げ

海事観光コンテンツの磨き上げによる、**海事観光分野における「コト消費」の拡大を実現**

【取組の例】

他サービスとの連携による新規利用者層の開拓

○新規利用者層獲得に向けた食・旅行業界や情報サイト業界等の他業界との連携強化



気軽に誰でも楽しめるマリンアクティビティ利用環境整備

○プレジャーボートによる周遊モデルルート「**マリンチック街道**」の新規認定 (2019年3月7日新規11ルート選定)
○若年層が無料でアクティビティを楽しめる枠組の活用



伊勢湾ルート



東京・夢の島ルート



全国に全16ルート展開するマリンチック街道

マリンアクティビティ「タダ」により将来のリピーターを獲得

④ コト消費の拡大

2. 海のナイトタイムエコノミーの実現

○海のナイトタイムエコノミーを実現する先進事例の創出等

＜海のナイトタイムエコノミーの例＞



夜景を見ながらのクルーズディナー



夜景を楽しめる屋形船



工場夜景クルーズ

視点2 受入環境整備～取組の方向性・具体の取組事項の例～

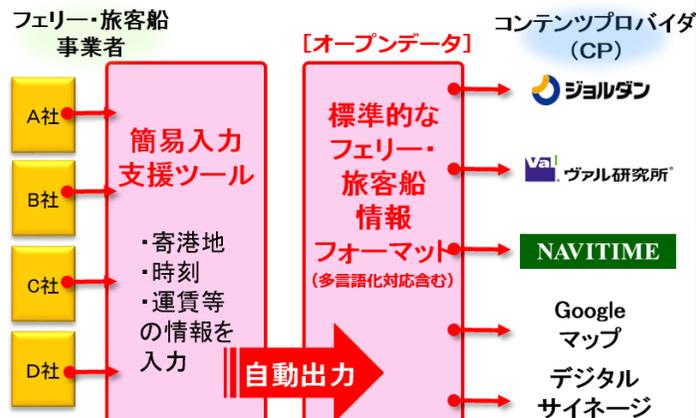
取組の方向性

すべての旅行者が他分野とシームレスに、ストレスなく快適に海事観光を満喫できる環境を実現するため、**船舶や関連施設周りの受入環境整備の更なる推進が必要**

具体の取組の例

航路情報のオープンデータ化促進 【2019年4月公表予定】

MaaS実現を視野に入れた多言語化対応の航路情報提供に向けた標準フォーマット・入力ツールの公表



多言語化された航路情報の検索が可能に



受入環境整備の現状把握・目標設定 【2019年4月公表予定】

主要な中長距離フェリー航路におけるインバウンド受入環境整備目標の策定

(項目の例)

- ・船内における多言語情報提供
- ・船内Wi-Fi環境の整備
- ・インターネット予約

等
フェリー船内における多言語案内の例



日本政府観光局 (JNTO) 認定「海の駅」の普及・拡大

マリンレジャーの拠点である「海の駅」のJNTO認定外国人観光案内所取得の申請促進

JNTO認定取得例



ふくおか・おど海の駅

ベストプラクティスの収集・水平展開 【2019年4月公表予定】

旅客船、フェリー、マリンアクティビティに係るインバウンド対応ベストプラクティス集の作成・公表



ベストプラクティス集(イメージ)

(記載内容の例)

- ・創意ある取組内容
- ・効果・成功要因
- ・今後の課題・展開

海上通信環境の改善

旅行者のインターネット利用環境需要に対応した海上通信環境の改善



衛星通信機器



Wi-Fi サービス整備

視点3 多様な魅力の発信強化～取組の方向性・具体的取組事項の例～

取組の方向性

- ✓ 業界全体に海事観光推進に係る取組推進のメリットを浸透させ、機運を高めるための情報発信が必要
- ✓ インバウンド向けには、**JNTOとの連携をはじめとした積極的プロモーションが必要**
- ✓ 国内旅行者向けには、幅広い層に対し、**「C to Seaプロジェクト」**（※）**等と連携した情報発信強化**が必要

（※）「C to Seaプロジェクト」・・・海や船に触れる機会の創出と、海事・海洋に関する情報発信を行う官民一体の取組

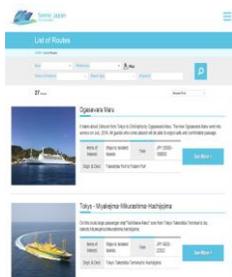
具体的取組の例

ベストプラクティスの水平展開や表彰

- ・海事観光推進に係るベストプラクティスの収集・水平展開
- ・海事観光推進に係るベストプラクティスの表彰制度の創設

インバウンド観光促進のための 情報発信強化

- ・訪日プロモーションに係るJNTOとの積極的連携
- ・訪日外国人旅行者向け英語版ウェブサイト「Scenic Japan from the Water(船から見る日本の絶景検索サイト)」の発信強化
- ・動画やSNSの活用などのデジタルマーケティング方策検討



インバウンド向け情報発信強化
(Scenic Japan from the Water)

「C to Seaプロジェクト」と連携した 国内向け情報発信強化

- ・イベント造成・情報発信等を通じた官民一体となった「C to Seaプロジェクト」の更なる推進
- ・動画やSNSの活用などを通じたポータルサイト「海ココ」の認知度強化、コンテンツ充実
- ・各種イベントにおける「C to Seaプロジェクト」アンバサダー STU48との戦略的連携
- ・「海事レポート」等における海事観光の魅力特集・発信



ポータルサイト「海ココ」及び各種SNSの発信強化



「ジャパンインターナショナルポートショー2019」における「マリンチェック街道認定セレモニー」